

そして天皇は神輿と同じ、国民がお互いに謙って神輿を担ぐことにより、日本型民主主義が生まれたのである。

それに対して西欧型民主主義はどうだろう。お互い権利を主張し衝突するので裁判官、弁護士、警察官がより必要になる。渋谷のスクランブル交差点が外国人の観光のメッカになった理由は日本型民主主義の姿を見たからである。図6も日本型民主主義の結果であるが、日本が遅れた国か？。



図5:左、膝を突いて被災者を見舞われる両陛下のお姿を見て海外の多くの人が感動した。右、天皇賞で貴賓室の天皇皇后両陛下に最敬礼する優勝したイタリアのミルコ・デムーロ騎手。しかしこれも多くの日本国民が天皇陛下に敬意を持ってこそ。

北海道独立論・沖縄独立論

最近北海道では、『先住民族アイヌが日本で虐げられている』の構図を作りだそうとしている人達がいる。最初にそれを言い出したのはアメリカ人だったが、現在は韓国人もその運動に加わっているようである。アメリカ人の場合は自分達の悪行を日本に転化する為であり、韓国人の場合は、日本の悪評を広め、あわよくば日本が分裂する等で日本を弱体化することが自分達の地位を上げると信じているからである。

まず、アイヌ人は日本列島の先住民では無い。北海道にいるアイヌ人は鎌倉時代にモンゴルに追われて樺太からやつて来て住み着いた人達である。では江戸時代の日本人はアイヌ人をどう見ているかと言うと幕末のおり千島列島に上陸して捕虜になって日本人をつぶさに観察したロシア仕官ゴローニンが、日本人はクリル人(千島アイヌ人)と日本人はかつて同一民族だったと信じており、それに対して日本人は支那人同じ祖先と考えることすら忌み嫌ってことを書き残しているのである。事実、世界中でアイヌ人と同じ Y-DNA 持

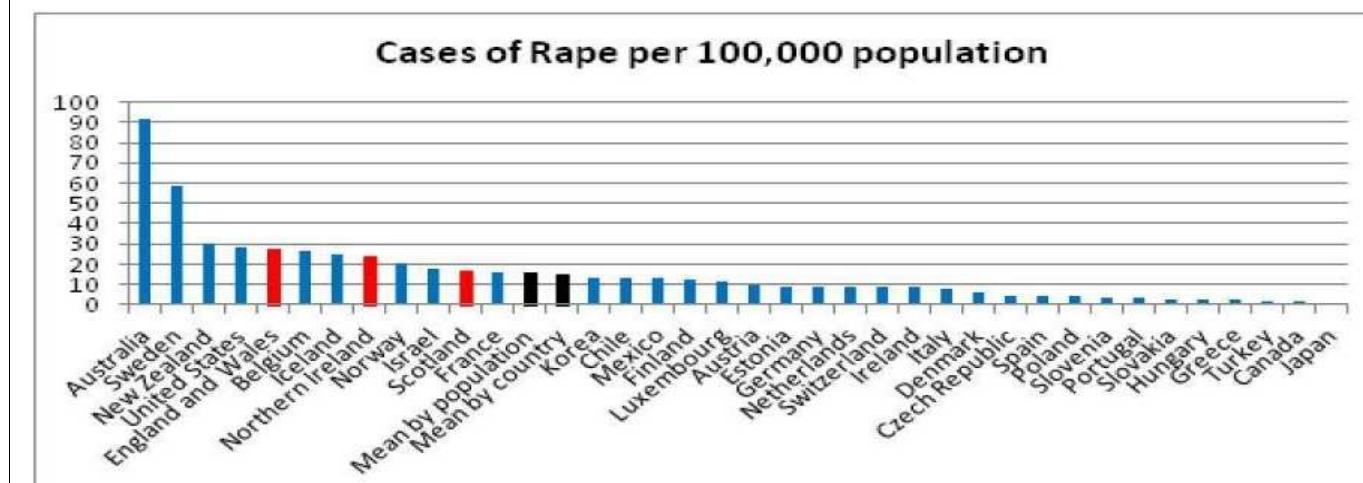


図6:世界各国の強姦発生率である。日本は最下位。日本は女性の人権について遅れていると言う人がいるが、これを見てどう反応するだろうか。それは日本が単一民族だからと言う人もいるかも知れないが、それは違う。Y-DNAの配分を見ても分かるように、日本は東アジアで滅亡した民族を含め多様な民族で構成されている。それを単一民族にしたのが日本なのだ。

つ民族は日本人しかいない。同胞と思っているアイヌを日本人が迫害する訳がない。

また沖縄でも同様に中国が『琉球人と中国人は同じ民族だった』などと、沖縄を日本から切り離すために盛んに沖縄独立を煽っているが、Y-DNAを見る限り沖縄人と現代中国人は殆ど関係が無い。沖縄人の主流な Y-DNA は本土と同じ D1a2 であり、漢族の Y-DNA のタイプと言われている O2 の割合は、日本本土の 20% 程に比べて沖縄ではおよそ 16% と、沖縄の方が少ないぐらいである。

ではこのO2のY-DNAが何処から来たかであるが、例えば中国には日本に来た長江人のY-DNA(図1、O1b2=黄橙)と少しタイプが違うが、やはり長江人と考えられているミャオ族(図1、O1b1=濃橙)のような少数民族がいる。ミャオ族は明の時代まで漢族に抵抗した民族であったが、ところが彼等のY-DNAの割合は殆ど漢族のO2で占められているのである。その理由は北米のインディアンのY-DNAの殆どが白人のDNAになっていることと同じである。

従ってこれは日本全体に言えることだが、日本列島の O2 の Y-DNA の殆どは、漢族が長江人女性に生ませた男子の Y-DNA だろうと言うことである。また沖縄と比べて本土の方が O2 の Y-DNA の割合が多いのは、朝鮮半島からの流入の為であるが、それも少数である。つまり DNA から見れば、沖縄の方が大陸との縁が薄いと言えるだろう。

琉球方言は古い日本語の万葉言葉。稻作も本土から伝わるなど沖縄は完全に日本の文化圏なのだ。

以上の事から、日本の長である天皇と同じ Y-DNA を持つアイヌや沖縄の人達が日本と言う国にもとまつたのは天の采配というしかない。

そして日本人なら天皇を守り、天皇と共に歩むべきだろう。
現存する世界最古の国、日本。
継続する世界最古の王朝、天皇。

天皇の遺伝子は縄文系：天皇は日本列島の先住民だった

皇位継承問題により、天皇の遺伝子の事が取り沙汰されているが、その中にオックスフォード大学の遺伝学研究チーム Chris Tyler-Smithが、天皇家のY-DNAの系統は(D-CTS8093)に属する系統であると結論づけており、人のDNAを検査する非営利目的の学術研究プロジェクト『Geno 2.0』と補完関係を持つ『FTDNA』のサイトでも、D-CTS8093(D1a2a1b)は、天皇伝子として認知されている。また出典は明らかではないが、東山天皇他、異なる天皇を先祖に持つ複数の子孫の Y-DNAもD1a2a1b であったとの情報も出ている。

D1a2系統の遺伝子(図1の濃緑)は、近縁の系統(図1のD*＝薄緑)がチベット等にいるが世界で日本列島とアンダマン諸島にしか見られない極めて稀な遺伝子であり。現在日本人男性の30～40%、アイヌ人の88%がこの遺伝子であり、日本列島の先住民である縄文人の遺伝子と考えられている。

つまり天皇は日本列島の先住民だったのだ。それでも日本国の大権威の象徴であり日本の長である天皇が日本列島の先住民である縄文系で有った事は、騎馬民族征服王朝説の完全否定は勿論、実は凄いことなのである。

Y-DNAでしか分らない民族の歴史

まずY-DNAとは何かであるが、Y-DNAとは父親から息子へ

、男性のみに伝えられる遺伝子である。そしてその系統の分布を知ることにより民族が辿った歴史を推定できるのだ。これに対して母親から伝えられるミトコントリアの遺伝子でも民族の歴史を推定できるのだが、女性は子孫を残せる確率が男性のように不平等ではない。どの女性も子孫を残せる確率が高いので民族の歴史が曖昧になってしまうのだ。

例えば図1のように、日本のY-DNAの系統の分布は明らかに近隣と異なるが、これがミトコンドリアのDNAの系統の分布では、日本と近隣との差はあまり出なくなるのである。

それがどういう事かと言うと、旧約聖書の民数記・第31章を見れば分るだろう。「ミデアンびとと戦って、その男子をみな殺した」、「女たちとその子供たちを捕虜にし」、「この子供たちうちの男の子をみな殺し、また男と寝て、男を知った女をみな殺しなさい」、「まだ男と寝ず、男を知らない娘はすべてみなたがたのために生かしておきなさい」とある。つまり男性は子孫を残せる確率が平等ではないのだ。

これは旧約聖書だけの話では無い。その典型的な例がアメリカ大陸のY-DNA状況である。北米でも南米でも現在の男性の遺伝子を調べて見るとY-DNAは白人のものばかりになっており、原住民男性のY-DNAは殆ど出てこないのだ。

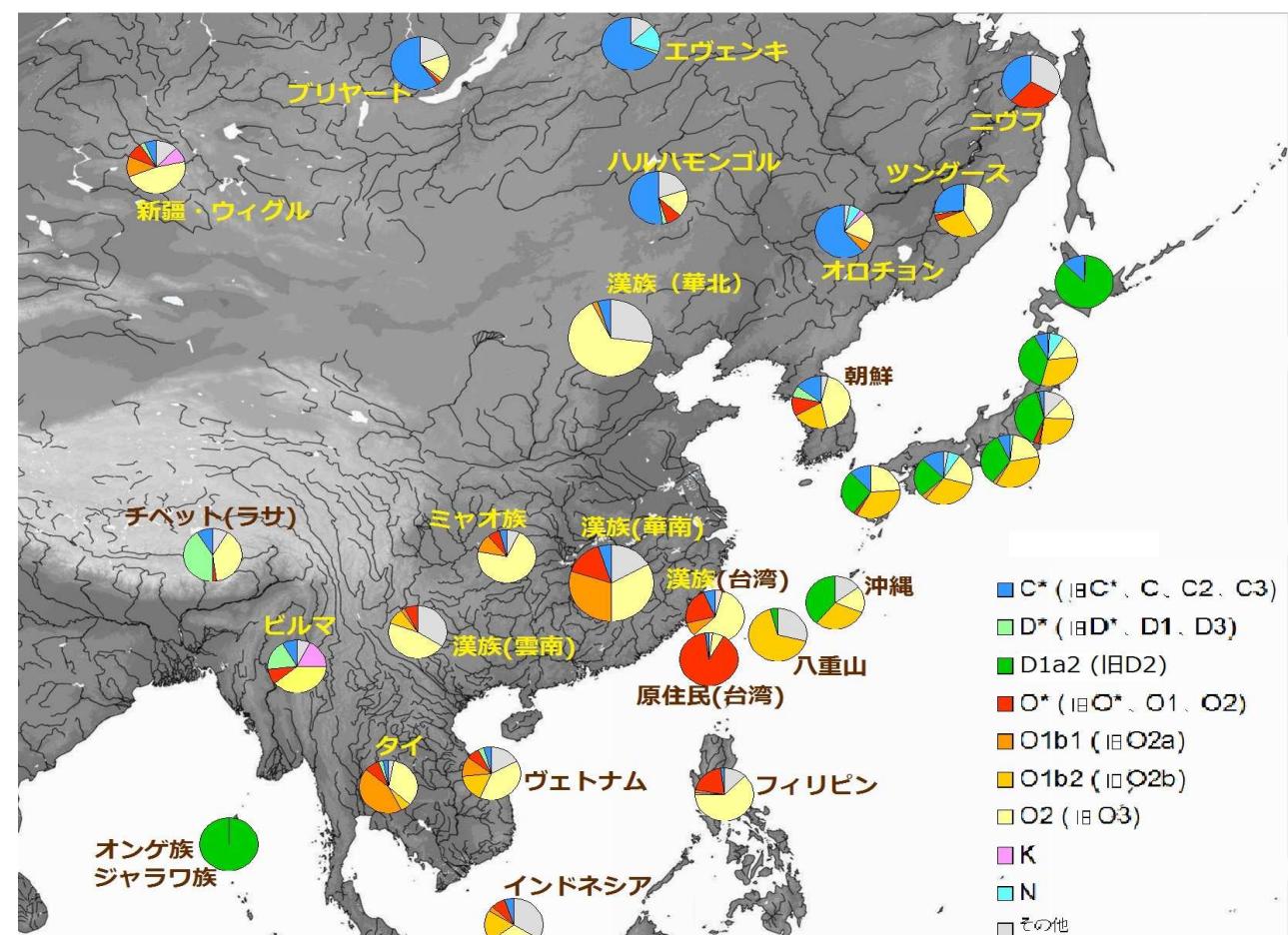


図1: 東アジアのY-DNAの分布。注、円グラフは崎谷満『DNAでたどる日本人10万年の旅』と wikipedia の情報から作成した。但し、崎谷満の本では古い系統名称だったので、新しい系統名称とした(カッコ内に旧**あるのが旧系統名称)。また一部推定も含まれる。

世界の歴史は乗っ取りとホロコーストの歴史

例えば、北米には先住民のインディアンが「土地や自然、全ての物はみんな物」の精神の下、極めて民主的で平穏な暮らしを営んでいた。そこに15世紀にメイフラワー号に乗った正教徒達がやって来きた。インディアンは飢えに苦しむ正教徒達に物を分け与えて彼等を救ったが、正教徒達がやった事は、彼等を救った酋長の息子を殺し、彼の妻子を奴隸商人に売り飛ばし、インディアンの土地を奪ったのだ。これはアメリカ大陸だけで起きた事では無い。むしろ世界の常識だったのだ。世界の歴史は、後からやって来た民族が先住民族を迫害し、又は奴隸にし、あるいはホロコーストをしたりして、国／土地を乗っ取った歴史もあるのだ。ところが日本だけが世界と違う。日本では先住民が後から来た民族を受け入れ、先住民による乗っ取りも起こらず、ホロコーストも起こらず、一つの民族になってしまったのだ。当然先住民指導の下、秩序ある受け入れが行われたのであろう。その証拠が天皇のY-DNAである。

図1をもう一度見て頂きたい。日本を特徴付けるD1b(濃緑)のY-DNAと近縁のD*(薄緑)系統のY-DNAであるが、現在の中国の中央に見かけないのはどうした事だろう。チベット、朝鮮、ウイグル、ベトナム等の辺境に追いやられているよう見えるのは何故だろうか。

もう一つ注目してもらいたいのは、日本でD1a2(濃緑)の次に多いO1b2(黄橙)のY-DNAであるが、これは日本に稻作を伝えた長江人のY-DNAと考えられている。長江人とは世界で初めて水稻方式の稻作を発明し、黄河文明より1000年以上前に長江文明を作った民族である。

ところがこのO1b2(黄橙)のY-DNAも、日本、韓国、ベトナム、インドネシア、雲南の辺境では見かけるが、肝心の長江周辺には殆ど無いのである。実は長江文明は黃河流域の牧畜民の度重なる攻撃により滅ぼされたと考えられている。その長江人のY-DNAが日本人にいるのは、彼等は襲撃から逃げ延びてきた人だった可能性が高いのである。

それでも農民であった長江人が、田畠を捨てて脱出先を危険な海を選んだのは尋常な事では無い。それはヨーロッパの中央に住んでいたゴート人が、フン人のあまりの残虐さに恐れをなして逃げ出した時と同様な事が、東アジアの大陸でも起きていたと思われる。

従って長江人のY-DNAと見られるO1b2が中国で殆ど見られないのは、ホロコーストによるものであり、また中国の少数民族のY-DNAの過半がO2(黄色)のY-DNAになっていることを見れば、O2が漢族のY-DNAであると考えられる。何故ならアメリカ大陸の男性のY-DNAの殆どが白人の系統に置き換わったように、東アジアの大陸の覇者は中華人民共和国の人口の94%以上を占める漢族であり、当然長江文明を滅ぼした牧畜民とは漢族の事であろう。

繩文人と長江人の幸せな邂逅

然しながら、長江人と繩文人の出会いは不思議なめぐり合せである。この事を幸せな邂逅と言う人もいる。繩文時代は日本列島の人口は東高西低であった。それが繩文時代の

後期から始まったの寒冷化により繩文人は南下(西に移動)をする。それでも繩文人の人口は激減する。

それを救ったのが長江人のポートピープルがもたらした稻作である。初めは陸稻栽培であったが水稻栽培が成功することにより日本列島の人口は大幅に増える。それが弥生時代である。つまり弥生時代とは繩文人が長江人の助けで起こした生活革命だったのである。なので従来言われてきた「半島から渡来人が多数来て云々が弥生時代」の説は間違いでいる。それを裏付ける事実が以下である。

朝鮮半島にもO1b2のY-DNAを持つ長江人が流れ着いており、現在の朝鮮人の主要な一員になっているが、日本人の主流になっているO1b2のY-DNAはO1b2a1a1で、朝鮮人の主流になっているO1b2のY-DNAはO1b2a1a2aと若干系統が違う。そのことは同じ長江人でも日本に流れ着いた集団と朝鮮半島に流れ着いた集団とは部族が違うと言うことであり、系統の比に差があるのは、その後に朝鮮半島から日本へ来る人の流れはそれ程活発で無かった事を物語る。

また米の遺伝子は8種類ほどあるが日本で発見された米は2種類のジャポニカ種(短粒種)しかなく、朝鮮半島では6種類あるが日本で発見された1種類の遺伝子が無いのである。それは日本の米は朝鮮半島経由でないことを意味する。

さらに日本の水稻栽培3200年前から始まっているのに、朝鮮半島では1500年前程度しか遡れない事や、朝鮮半島の米の遺伝子が、日本の古来米の遺伝子に満州から入った米の遺伝子が交雑しているのが多いことから、**朝鮮半島の水稻は日本から伝わった**との結論が中国政府の学術機関からも出ているのである。

まさに『豊葦原瑞穂國』の面目躍如の結論である。天皇が率先して長江人の助けを借りながら水稻栽培に力を注いでいる姿が目に浮かぶではないか。

石器時代のままであったが世界最古の土器を作り、世界最古の漆細工を作り、硬玉の翡翠を加工するなど物作りが得意な繩文人。これまた石器時代のままであったが繩文土器、繩文漆細工と同時代に土器作成や漆細工を行っており、軟玉で有ったが翡翠工芸が得意で、水稻栽培を発明した長江人と繩文人の出会いは幸せな邂逅であった。



図2: 繩文晚期勾玉、繩文前期赤漆塗櫛、長江下流良渚文化玉璧、長江下流河姆渡遺跡赤漆塗櫛

リーダーが強権を持たなくても機能する定住民型社会

繩文人と長江人の両者に共通するところはもう一つある。実は繩文人も長江人は落ちこぼれなのである。繩文人はナウマン象ハンターとして日本列島に入ったのだが、ナウマン象は取り尽した時には温暖化が始まったので陸続きだった日本列島は孤島になってしまい、帰るに帰れずやむなく海辺や川辺で定住生活に入ったのである。

長江人もまた大陸での羊の囲い込み競争で遊牧民に敗れ、動物性たんぱく質を得ることが出来ないため、やむなく長江の川辺で漁労・採取の定住生活に入ったと考えられる。しかしそこは必要は発明の母、土器や漆工芸、特に稻作などは定住したからこそ生まれたのである。

それだけでは無い。定住することは人々の仕事を専門化し分業化することを促す。その利点は、一般的な共同作業で人々を協調させて仕事をさせるには、リーダーを立てないうまく進める事が出来ないが、人々が分業している世界ではリーダー無しでも専門家が色々居るだけで協調体制になっていくのである。そうなると隣の人は生存競争の競争相手では無くなる。そして益々和が生まれる。

日本ではリーダーに能力が無くても何となくうまくいくてしまうのは、繩文時代からの人々の生き方が身についているのではないかだろうか。そして当然早くから定住生活に入っていた繩文人と長江人の出会いは、うまく行くことが約束されていたのである。

遊牧民型社会は乗っ取りか足の引っ張り合い

遊牧民も草原が有る大河の辺で牧畜・麦栽培等の定住生活に入るのだが、元々遊牧も牧畜も色々な専門家同士が分業する仕事は少ない。遊牧民同士が協調体制になるときは強力なリーダーの指導下に他民族を襲うか他民族の襲撃から守るときぐらいである。その他の時は同じ部族同士でも競争相手、足の引っ張り合いも起きるわけである。国の乗っ取り、奴隸、人間を家畜のように去勢して使う宦官等は何れも遊牧民の発明である。

結局のところ習い性となる例え通り、定住しても元の遊牧民型の性質は隠しようも無い。中国が古代そのままでチベットやウイグルに侵攻して、乗っ取りとホロコーストを続けているのは漢民族の性なのだろう。文化大革命は遊牧民時代からの仲間内の足の引っ張り合いと考えれば納得する。

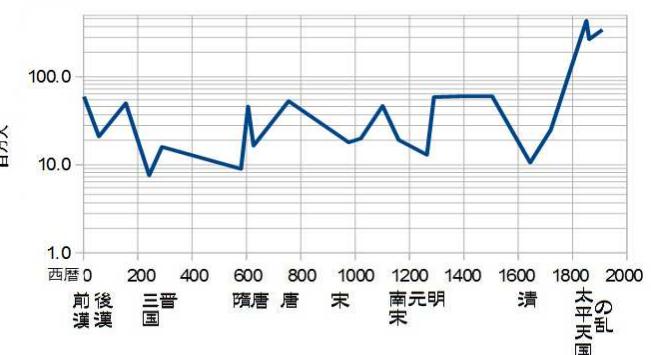


図3: 支那の人口推移。

図3のように、支那では王朝が変わる毎に人口が激減する。しかも何れの王朝も寿命が短い。

ウシハクとシラス

実はこれは古事記の「国譲り神話」に出てくるウシハクとシラスに関係している。

ウシハクもシラスも統治する意味であるが、統治の仕方が違う。ウシハク式統治がマネジメント型人間による統治だとすると、シラス式統治はプロフェショナル型人間による統治と言

えるだろう。

シラス式統治とは手本を見せて、背中で教え導くやり方を想像してもらえば良い。上の者から教えを受けた下の人間は自分が上に立ったとき同じやり方で下の人間を導く事になる。お互いに競え合えば益々プロフェショナルとなる。そのプロフェショナルの人間が上に立つだから技術伝承も行われる事になる。

それに対してウシハク式統治、即ちマネジメント型人間による統治では下の人間と、上に立つ人間の職務が異なる。極端な事を言うと下のプロフェショナル型人間同士がいくら仕事で競い合っても上に立つことは無い。上に立つ人間は少數の人間から選抜された人間だけである。しかも少数のマネジメント型人間同士の競争は、結局は足の引っ張り合いになるだろう。

そして日本はシラス式統治の国である。天孫降臨のとき、ニギの尊は天照大神から稻穂を持たされる。つまりニギの尊自身が稻作を行い、それを民に見せて皆が稻作を行う國にせよの意味である。つまり日本が世界最長寿の国なのは、長が先住民だったからこそ出来た、シラス式統治を伝統にしている国だからである。

異民族の受け入れは厳正な秩序が必要

繩文人と長江人の邂逅が幸せな邂逅と言っても、無秩序な異民族の受け入れだったら、その後单一民族と言われる程の融和的混合は無かつたろう。それが出来たのは先住民である繩文人の指導の下、後から来た民族の勝手、すなわち徒党を組んで内なる外を作ることを許さなかったからである。その悪しき例が現在の欧州での難民受け入れである。例えばスウェーデン。スウェーデンは善意で難民を受け入れたのだが、難民は一部地域に塊って住み、その地域には元から住んでいたスウェーデン市民は勿論、消防車さえ警察官が一緒ででなければ入れなくなっているのである。



図4: スウェーデン国旗を燃やす難民。テレビクルーに暴力を振る難民。それは日本でも。デモで天皇の骸骨かざす在日外国人。日の丸をうんこの形に変形して、参政権をよこせとデモをする在日外国人。

日本で長江人を受け入れたとき、天皇の先祖がその地域の長だったかどうかは分らないが、その後の天皇の時代では日本は高句麗や百済からの難民を受け入れ、移り住んだ彼等も日本民族の良き一員となっているところを見れば、先住民の権威を持つ長が居たからこそ秩序ある受け入れが出来たと言えるだろう。

人は集団の中でしか生きることが出来ない。その集団の秩序があってこそ人は安らかでいられる。その秩序を得るには集団を治める長が必要になる。そして長は権威が無いと集団を治めることが出来ない。日本ではその権威が天皇なのだ。勿論、正統性が無い女系天皇では権威も無くなる。P4へ